

GWは「にじのきらめき」プロジェクト

目的

本県の米生産は、「コシヒカリ」と「あきさかり」の2品種で栽培面積の約8割を占め、幅広い作期で生産されているが、移植時期が5月以降の「コシヒカリ」や5月上中旬頃の「あきさかり」については、夏季の高温により収量や品質が低下することが課題。そこで、コシヒカリと同時期に収穫が可能で、収量が多く、高温下でも品質の低下が少ない**高温耐性品種「にじのきらめき」**に着目し、移植時期をコシヒカリ等の高温障害が発生しやすい**「5月上中旬(GW頃)」をターゲットとし、集中的に品種の切り替え**を進めることで、基幹品種の適期適作により高品質米生産を実現する**「産地品種リレー」**を構築し県産米の競争力向上を目指す。

連携体制

関係団体

- ・全農とくしま
- ・集荷団体(主食集荷)
- ・農材、農機メーカー

生産者・生産者団体

- ・JA(県、徳島市、東とくしま)
- ・大規模担い手
- ・農業サービス事業体

行政等:

- 市町村、みどり戦略推進課
- 農林水産総合技術支援C(研究課、経推課)
- 各県民局、東部局(各農業支援C)等

課題

【制度面】

- ・高温耐性を持つコシヒカリ熟期の奨励品種がなく、高温の影響を受けやすいGW頃の品種構成が複雑化
- ・作付けの少ない奨励品種が残っており、多品種少量生産による産地競争力の低下

【技術面】

- ・更なる多収、高品質化に向けた施肥、栽培技術の構築
- ・生産性の向上による低コスト化

【生産面】

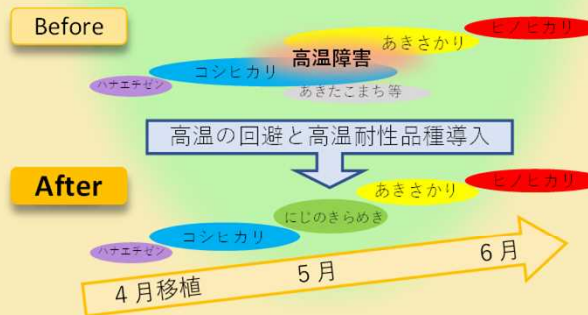
- ・早生品種の増加により育苗施設の運用が難化
- ・共同乾燥調製施設での受入れ時期の調整が必要
- ・既存乾燥機的能力不足による収穫作業の遅れ(多収による弊害)
- ・高温耐性品種は全国的な種子需要の増加により種子確保が困難

【環境面】

- ・更なる高温など環境悪化を見据えた対策



多収と高品質を実現する産地品種リレー



課題解決に向けて

【制度面】

- ・高温耐性品種「にじのきらめき」の現地実証を進め、奨励品種への採用を検討。GW頃の作付け推進により基幹品種の作付け時期を誘導し、産地品種リレーを構築
- ・作付けの少ない奨励品種を廃止し基幹品種へ集約

【技術面】

- ・品種特性に合致する新肥料の現地実証
- ・IoT等新たなコスト低減技術の実証と導入(栽培管理支援システム xarvio、再生二期作、フレコン出荷等)

【生産面】

- ・品種の栽培時期の誘導による施設運用の合理化
- ・国事業及び「とくしま農山漁村未来投資事業」(ソフト、セミハード、ハード)等の活用
- ・県内採種の検討と種子生産、ほ場審査技術の実証
- ・原原種、原種の確保を前倒しで実施

【環境面】

- ・高温耐性新品種の積極的な現地実証の実施

目指すべき姿

- ・産地品種リレーにより県産米の品質向上が進み有利販売につながっている。
- ・大規模経営体では高品質米品種リレーが構築されることによる作期分散や生産性向上技術の導入により規模拡大が進み、適正な利益を確保できている。

【成果目標】 「にじのきらめき」生産面積

20ha (R7) → 300ha (R8) → 1,000ha (R10)